

# 算命学中庸

## 【初年】 28回目

28回目の授業はこのページからです。

### 授業科目 【五本能と十大主星】

【初年】 28回目【五本能と十大主星】 01

宿命には「<sup>いんせん</sup>陰占の<sup>しゅくめい</sup>宿命」と「<sup>ようせん</sup>陽占の<sup>しゅくめい</sup>宿命」があります。

「<sup>いんせん</sup>陰占」も「<sup>ようせん</sup>陽占」も「<sup>しゅくめい</sup>宿命」ですから、そのまま<sup>しゅくめい</sup>宿命という呼び方で構わないのですが、ただ単に<sup>しゅくめい</sup>宿命というと、<sup>いんせん</sup>陰占の宿命なのか、<sup>ようせん</sup>陽占の宿命なのか、はっきりしないので混同します。

そこで通常の呼び方としては ⇒ 「<sup>いんせん</sup>陰占」または「<sup>しゅくめい</sup>宿命」と  
たとえば「<sup>いんせん</sup>陰占の<sup>しゅくめい</sup>宿命」のことです。

参考までに「志村けんさん」の宿命を記載します。 ➡

＊ 志村 けん 1950(s25)-2-20 [2020-3-29] 70歳没]

宿命(1) 志村けん

	丙 戊 庚		禄存星	天貴星	大運
午	戌 寅 寅	鳳閣星	龍高星	龍高星	5 己卯
未	辛 戊 戊	天庫星	鳳閣星	天貴星	15 庚辰
	丁 丙 丙	人体図			25 辛巳
	戊 甲 甲				35 壬午
		「陽占」十大主星と十二大従星で書く			45 癸未
		「陰占」十干と十二支で書く			55 甲申
					65 乙酉
					75 丙戌

	丙 戊 庚	天干	} 宿命
午	戌 寅 寅	地支	
未	辛 戊 戊	二十八元に 9個の蔵干が 入っている	
天中殺	丁 丙 丙		
	戊 申 申		

年干支「庚寅」 こうきんのとら (こうきんのとら**ぼく**) } 五行をつけた呼称

月干支「戌寅」 ぼどのとら (ぼどのとら**ぼく**) } どちらも正しい

日干支「丙戌」 へいかのいぬ (へいかのいぬ**ど**) }

☞ 陽占の人体図は〔十大主星〕と〔十二大従星〕で書きます。

宿命（2）志村けん

	ろくぞんせい 禄存星	てんきせい 天貴星（第3従星）
ほうかくせい 鳳閣星	りゅうこうせい 龍高星	りゅうこうせい 龍高星（第三命星）
てんこせい 天庫星	ほうかくせい 鳳閣星	てんきせい 天貴星（第2従星）

	だいにんせい 第四命星	だいさんじゅうせい 第3従星
だいいちせい 第一命星	しゅせい 主星	だいさんめいせい 第三命星
だいいちじゅうせい 第1従星	だいにんせい 第二命星	だいにじゅうせい 第2従星

陽占（人体図）には  
命星の場所と  
従星の場所がある

第四命星〔禄存星〕ろくぞんせい

主星〔龍高星〕りゅうこうせい

第二命星〔鳳閣星〕ほうかくせい

第一命星〔鳳閣星〕ほうかくせい

第三命星〔龍高星〕りゅうこうせい

第1従星〔天庫星〕正式名称=てんこせい 通称=てんくらせい

第2従星〔天貴星〕てんきせい

第3従星〔天貴星〕てんきせい

このように言います

従星 ⇒ わかりやすいように算用数字で書きました。

☆ 十大主星は〔陽〕と〔陰〕があります。

☆ 十大主星は<sup>ごぎょう</sup>五行の質〔木 火 土 金 水〕を有します。

☆ 十大主星は<sup>ごとく</sup>五徳の質〔<sup>ふく</sup>福 <sup>じゅ</sup>寿 <sup>ろく</sup>禄 <sup>かん</sup>官 <sup>いん</sup>印〕を有します。

✎ 「十大主星」の意味合いを書きます。

① **貫索星** かんさくせい

〔守備本能・陽〕〔五行・木性〕〔五徳・<sup>ふく</sup>福〕〔人物⇒自分・兄弟・友人〕  
独立独歩、頑固で自我心が強くマイペース、一度決心したことは簡単には変えない意固地な面をもつ。独立心旺盛で、集団行動よりも単独行動を得意とする個人主義である。まわりを気にせず、自分本位に物事を進めるため、協調性に欠けやすい。

② **石門星** せきもんせい

〔守備本能・陰〕〔五行・木性〕〔五徳・<sup>ふく</sup>福〕〔人物⇒自分・兄弟・友人〕  
協調性・協和性に富む。人付き合いがよく、人をまとめていくのが上手で集団を作りやすい。集団のなかで統率力や説得力を発揮する。内面に反骨精神をもち、横社会で活躍しやすく、縦社会を無視する面をもつ。政治力の星でもある。

③ **鳳閣星** ほうかくせい

〔伝達本能・陽〕〔五行・火性〕〔五徳・<sup>じゅ</sup>寿〕〔人物⇒男の子・目下〕

<sup>おだ</sup>穏やかでのんびりした性格で、無理をせず、自然に生きていこうとする質は、環境に順応しやすい。

無欲的といえる。

内面の神経は細かく観察力がある。

趣味は多才で芸術面にすぐれる。

④ **調舒星** ちょうじょせい

〔伝達本能・陰〕〔五行・火性〕〔五徳・<sup>じゅ</sup>寿〕〔人物⇒女の子・目下〕

1人でものを考えることが好きで孤独の星といわれる。

多情多感で空想力がある。

心理面の葛藤が大きく、神経質である。

反発心を内に秘めて本心を出そうとしないが、聖職者の情愛にもひとしい暖かさも有する。

⑤ **禄存星** ろくぞんせい

〔魅力本能・陽〕〔五行・土性〕〔五徳・<sup>ろく</sup>禄〕〔人物⇒父親〕

親切でやさしく、人当たりがよいので人気を得やすい質をもつ。

内面より外面がよく、愛情・奉仕の星であるが、一度裏切られる

と二度と<sup>おんじょう</sup>温情をみせない。

財をうごかすのが上手で商才がある。

⑥ **司禄星** しろくせい

〔魅力本能・陰〕〔五行・土性〕〔五徳・<sup>ろく</sup>禄〕〔人物⇒妻〕

平和を好み<sup>けんじつ</sup>堅実で家庭的な星といわれる。

努力をいとわ<sup>しんぼうづよ</sup>ない辛抱強さは蓄積となり、その永続性はまわりの信用を得やすい。

実力を発揮するのに時間を要するが、その信頼は簡単には崩れず、不運を切り抜ける質ともなる。

考え方は、妻の<sup>ごと</sup>如く現実的で、損得の感覚に秀でる。

⑦ **車騎星** しゃきせい

〔攻撃本能・陽〕〔五行・金性〕〔五徳・官〕〔人物⇒偏夫〕

個人の行動力、前進力がある。

自分のおもいを直ぐに行動に移そうとする質をもつ。

男性的な闘争心をもつ。

負けず嫌いで責任感が強く、その行動に損得はなく一途である。

動中の思考といわれ、行動が必要である。

⑧ **牽牛星** けんぎゅうせい

〔攻撃本能・陰〕〔五行・金性〕〔五徳・官〕〔人物⇒正夫〕

集団の行動は団体や組織で発揮される。

統率・規則を重んじる。

真面目で名誉心が強い。

出处進退をわきまえるが、逃げ上手にもみられる。

個人の才能を集団に和すための、隠忍自重と精神力を養うために

は歳月を必要とするが、集団を卒いる能力となる。

女性は家庭的である。

⑨ **龍高星** りゅうこうせい

〔習得本能・陽〕〔五行・水性〕〔五徳・印〕〔人物⇒<sup>へんぼ</sup>偏母〕

改革の星といわれ伝統に縛られず、知恵は好奇心が旺盛である。

個性的な創作世界をつくり、現状にあきたらず、変化を好む。

その創造力は、社会生活の向上の<sup>みなもと</sup>源になりえる。

離別・放浪、外国の星といわれる。

⑩ **玉堂星** ぎょくどうせい

〔習得本能・陰〕〔五行・水性〕〔五徳・印〕〔人物⇒<sup>せいぼ</sup>正母〕

学問の星といわれ、頭をつかうことが好きである。

伝統的な分野における企画力に<sup>ひい</sup>秀でる。

保守的で<sup>ちみつ</sup>緻密で<sup>ゆうが</sup>優雅、子供や目下の面倒見が良く、母性的で慈愛を有する星である。

学者・研究者としての質を備える。

一般的に、十大主星はこのような<sup>しつ</sup>質を内在しています。

参考：質（ものごとの成立するもと）

☞ 十二大従星の科目は【40回目・41・43・45・46・52回目】  
にでています。

□ 性格判断は「<sup>ごほんのう</sup>五本能」を基準にします。

⇒ 古代中国の学者は……人間には<sup>つうせい</sup>通性の質があり、その<sup>ほんしつ</sup>本質は『人間に生まれつき<sup>そな</sup>備わっている本能である』としたのです。そして、本能を五つの型に分類しました。それが算命学でいうところの「五本能」です。

〔たとえば〕昨今、さまざまな事件が起こっています。

“子供を<sup>ぎやくたい</sup>虐待して殺す” 幼いからだに暴力をうけた傷跡を残して死んでゆく……なんの抵抗もできない幼い子が<sup>ぎやくたい</sup>虐待され、<sup>がし</sup>餓死させられて<sup>いのち</sup>生命を失う。

そのような報道を眼にし、耳にしたとき、それぞれの人  
が微妙に違う感情を心に生じさせます。

「あああ<sup>かわいそう</sup>可哀相……」とおもう気持ち、1人ひとりが<sup>おも</sup>思い  
<sup>えが</sup>描く精神作用は異なります。

「可哀想」とおもう<sup>あ</sup>心の<sup>かた</sup>在り方・<sup>こころ</sup>心に<sup>おも</sup>思い浮かべる感覚は少しずつ違うはずです。

心のうごきを考えたときに、<sup>こころ</sup>心に突き刺さるほどの<sup>ひあい</sup>悲哀を感じる人もいるでしょう。

それほどに“もののあわれ”を感じない人もいます。

100人いれば……1人ひとりの感情は少しずつ違うはず  
です。

性格判断をするときに、人それぞれがもっている微妙な  
感情のうごきに考えをめぐらすと、性格判断の域<sup>いき</sup>を超<sup>こ</sup>  
てしまうと考えています。

算命学の性格判断は、人間が生まれながらに持っている  
「<sup>いつ</sup>五つの<sup>ほんのう</sup>本能」を基準にします。

参考：ものあわれ（人の心を、同情をもって十分に理解できること）

参考：悲哀（かなしくあわれなこと）

参考：おぼえる（自然にそう思われる。感じられる。意識する）

参考：通性（同類のものに共通して認められる性質。共通の性質。）

参考：本能（生まれつきもっていると考えられている行動の様式や能力）

参考：基準（物事の基礎となる判断のよりどころ。比較して考えるため様式）

参考：性質（もって生まれた気質。天性）

参考：本質（もともとの性格・独自の質）

参考：備わる（物が足りないところなくそろい整う）

👉 12回目の「本能論」で「五本能」をまなびましたが……

28回目は「五本能と十大主星<sup>れんかん</sup>の<sup>の</sup>連関」を述べます。

☞ 人間は生まれたときから「<sup>ごほんのう</sup>五本能」をもっている。

どなたも「五つの本能」を生まれたときから身につけています。

五本能〔<sup>しゅびほんのう</sup>守備本能〕〔<sup>でんたつほんのう</sup>伝達本能〕〔<sup>みりよくほんのう</sup>魅力本能〕〔<sup>こうげきほんのう</sup>攻撃本能〕〔<sup>しゅうとくほんのう</sup>習得本能〕

**宿命（3）五本能**

	<sup>しゅうとくほんのう</sup> 習得本能	
攻撃本能	魅力本能	守備本能
	伝達本能	
	<sup>だいにめいせい</sup> 第二命星	
<sup>だいいちめいせい</sup> 第一命星	<sup>しゅせい</sup> 主星	<sup>だいさんめいせい</sup> 第三命星
	<sup>だいにめいせい</sup> 第二命星	

人体図にある五本能の定位

〔第四命星は習得本能の場所です〕〔主星は魅力本能の場所です〕

	<sup>ろくぞんせい</sup> 禄存星	<b>宿命（6）志村けん・人体図</b>
鳳閣星	龍高星	<sup>りゅうこうせい</sup> 龍高星
	<sup>ほうかくせい</sup> 鳳閣星	

志村けんさんの〔第四命星・習得本能の場所〕に〔禄存星〕が載っています。  
 〔主星・魅力本能の場所〕に〔龍高星〕が載っています。

☞ 人間には〔<sup>かんぞう</sup>肝臓・<sup>しんぞう</sup>心臓・<sup>ひぞう</sup>脾臓・<sup>はいぞう</sup>肺臓・<sup>じんぞう</sup>腎臓〕という五つの臓器が、どなたにも平等に備わっています。

ところが……1人ひとりの心臓だけ比べると、大きさもちょっとずつ違うし、心臓の鼓動もちょっとずつ違うし、心臓の働きが少し弱い人もいれば、少し強い人もいます。少しの違いはあっても「肉体には五臓が備わっている」という共通点があります。

☞ 「人間の精神には、だれにも共通する『五つの本能』が<sup>そな</sup>備わっている」と算命学は考えています。

本能がもつ質を五つに分類して「五本能」と名称したのです。

参考：質（生まれつき。ものごとの成立するもと）

参考：位置づける（ふさわしいと思われる位置に置く。位置を与える。）

## □ 「陰占・五本能」と「陽占・十大主星」の連関。

連関 (れんかん) ⇒ つながりかかわること。互いにかかわりあうこと。

〈1〉「日干」が「ほかの干」から生じられる [習得本能]

「自分が（ほかから）<sup>しょう</sup>生じられる（<sup>たす</sup>助けられる）」 参照 14 頁

〈2〉「日干」が「ほかの干」を生じる [伝達本能]

「自分が（ほかを）<sup>しょう</sup>生じる（助ける）」 参照 20 頁

〈3〉「日干」が「ほかの干」から剋される [攻撃本能]

「自分が（ほかから）<sup>こく</sup>剋される（<sup>こうげき</sup>攻撃される）」 参照 25 頁

〈4〉「日干」が「ほかの干」を剋す [魅力本能]

「自分が（ほかを）<sup>こく</sup>剋す（攻撃する）」 参照 30 頁

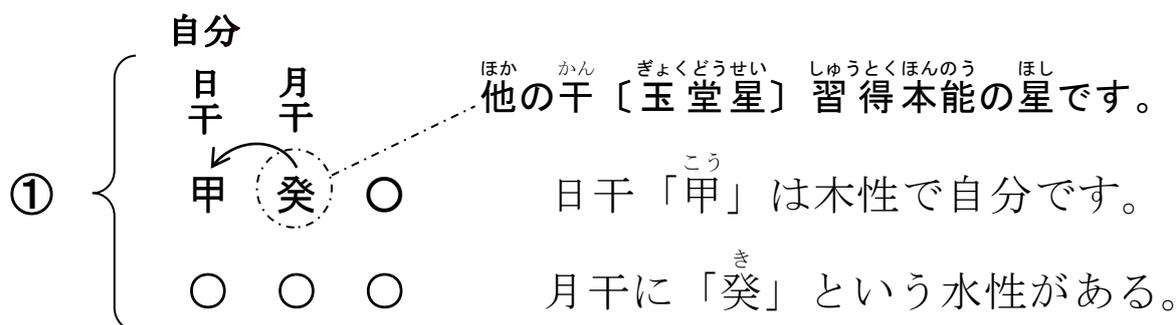
〈5〉「日干」が「ほかの干」と比和 [守備本能]

「自分が（ほかと）<sup>ひわ</sup>比和（ほかとおなじ）」 参照 34 頁

〈1〉から始めます。

〈1〉「日干」が「ほかの干」から生じられる 〔習得本能〕  
 「自分が（他から）生じられる（助けられる）」 参照14頁

「他の干」は「年干」でも「月干」でも構いません。



日干「甲木」の人です。自分が樹木で月干に癸水があります。

甲木（樹木）が（水→木）と 癸水から生じられています。

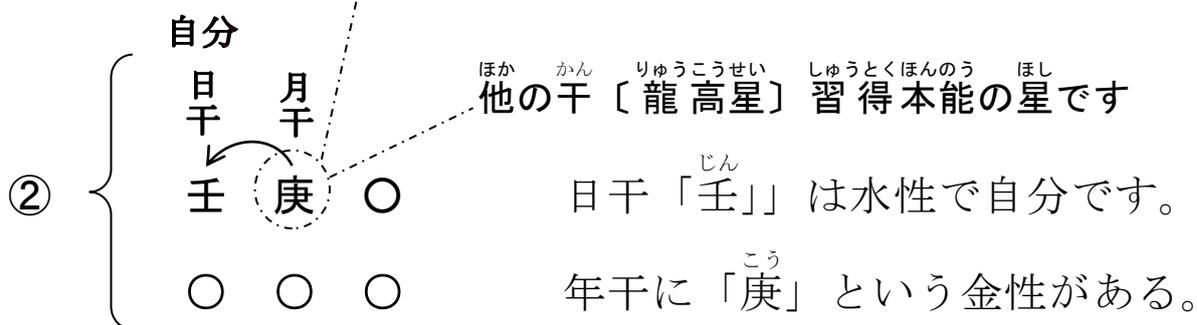
この姿は、樹木が水に生じられて（育てられて）います。

樹木（自分）は、水があるおかげで成長できます。

水の助けがなければ、枯れて死んでしまいます。

他の干は十大主星〔玉堂星（陰）〕です。本能は〔習得本能〕です。

庚金を水源にたとえる場合もあります



日干「壬水」の人です。自分が海・大きな湖です。

壬水〔湖〕が（金→水）と庚金から生じられています。

自分が枯渇しないように、水源に助けられている状態です。

参考：状態（物事のありさま。ようす）

湖の枯渇⇒『アラル海』カザフスタンとウズベキスタンにまたがる湖。

1991年のソ連崩壊まで旧ソ連が統治。ソ連はアラル海に隣接する乾燥地

帯を農耕地に変えようとして大規模な灌漑をした。世界4位の面積（日本の東北地方の面積）だった「アラル海」が干上がったのは、アムダリア川

とシルダリヤ川の水源が灌漑用水として、極度につかわれたことに起因します。アラル海の湿地帯は砂漠になりました。（ネット情報より抜粋）

②の命式でいえば⇒「壬水」は『アラル海』そして「庚金」は水源のアムダリア川とシルダリヤ川と考えればよいですね。

参考：極度（これ以上はないという程度）

### そうしますと……15 ページの①

①「甲」は木性、「癸」は水性です。本質はまったく違いますが「甲木」は「癸水」から（水→木）と生じられています。

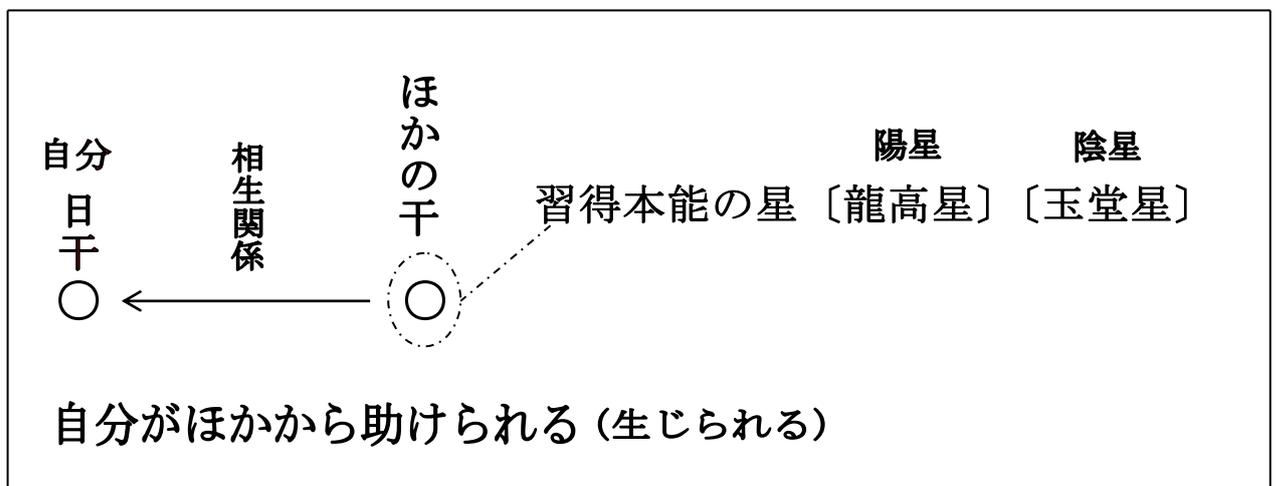
②「壬」は水性、「庚」は金性です。本質はまったく異なりますが、「壬水」は庚金から（金→水）と生じられています。

①と②の本質は違っても、「自分が（ほかから）助けられる」という姿はおなじです。

「他から生じられて、なにかを内にとりこむ姿」は〔習得本能〕です。習得本能の十大主星は〔龍高星〕と〔玉堂星〕です。

①〔玉堂星〕は習得本能（陰の星）になります。

②〔龍高星〕は習得本能（陽の星）になります。

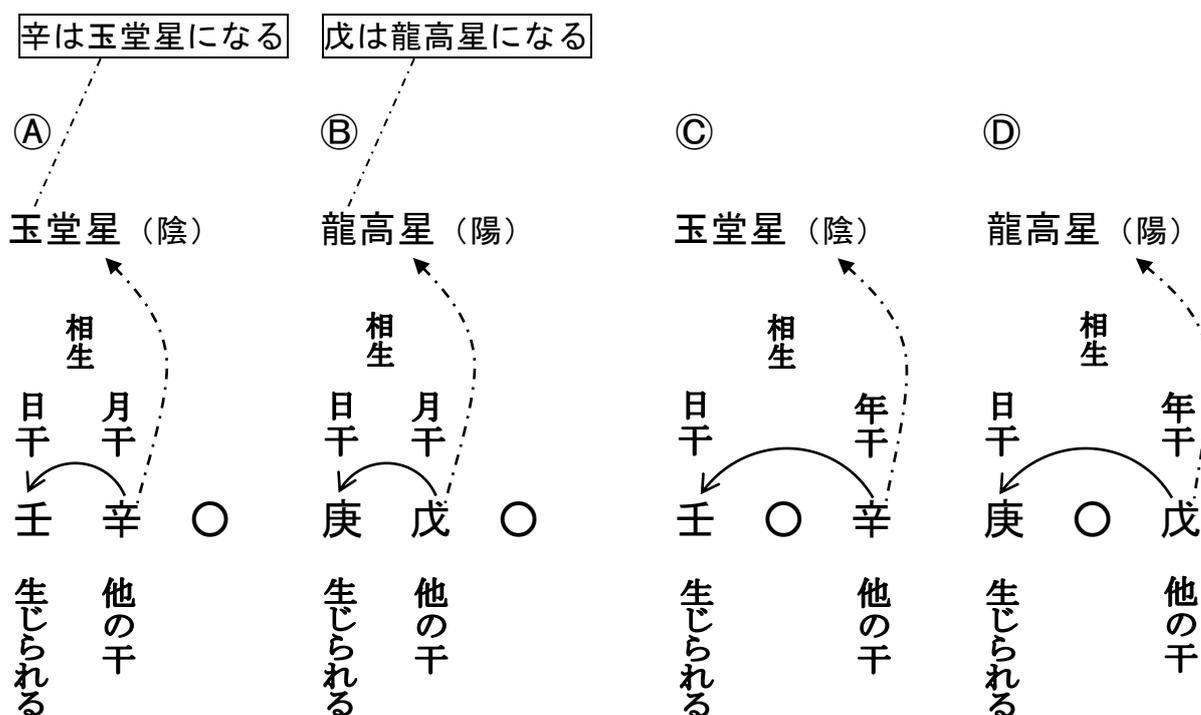


参考：本質（あるものを、そのものとして成り立たせているそれ独自の性質）

〈1〉「日干」が（ほかの干）に生じられる」 ① ② ③ ④

「自分が（ほかから）助けられる」その姿を4つ書きました。

「<sup>ほか</sup>他の干」というのは「<sup>げっかん</sup>月干」と「<sup>ねんかん</sup>年干」を意味します。



- ① <sup>にっかん</sup>日干「壬水」が（金→水）と <sup>げっかん</sup>月干「辛金」から生じられる。
- ② 日干「庚金」が（土→金）と 月干「戊土」から助けられる。
- ③ 日干「壬水」が（金→水）と <sup>ねんかん</sup>年干「辛金」から生じられる。
- ④ 日干「庚金」が（土→金）と 年干「戊土」から生じられる。

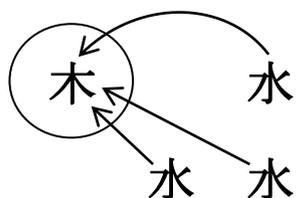
習得本能「自分が（<sup>ほか</sup>他から）生じられる・助けられる」姿です。

〔自分が（ほかから）<sup>うち</sup>なにかを内に取り入れる〕姿です。

〔自分が（ほかから）なにかを学ぶ〕姿です。

〔たとえば〕 五行で書きます。

宿命は日干「木性」です。そのまわりに水があります。



樹木は（水→木）（水→木）（水→木）と  
水に生じられています。

〔樹木は水のおかげで成長します〕〔樹木は水に助けられています〕

水がたくさんあって（木←水）（木←水）（木←水）と、  
あっちからも、こっちからも、生じられています。

あれも習得しよう。これも<sup>えとく</sup>会得しよう。いろいろな物事  
を自分の<sup>うち</sup>内<sup>おさ</sup>に収めようとしているのです。

樹木のように、あっちからも、こっちからも、習得する  
人もおられます。なにかひとつに焦点をしばって習得す  
る人もおられます。どちらも習得本能が強い人です。

習得本能の十大主星は〔<sup>りゅうこうせい</sup>龍高星〕と〔<sup>ぎょくどうせい</sup>玉堂星〕です。

習得本能の陽星〔龍高星〕

習得本能の陰星〔玉堂星〕

十大主星は本能の質をそなえています。

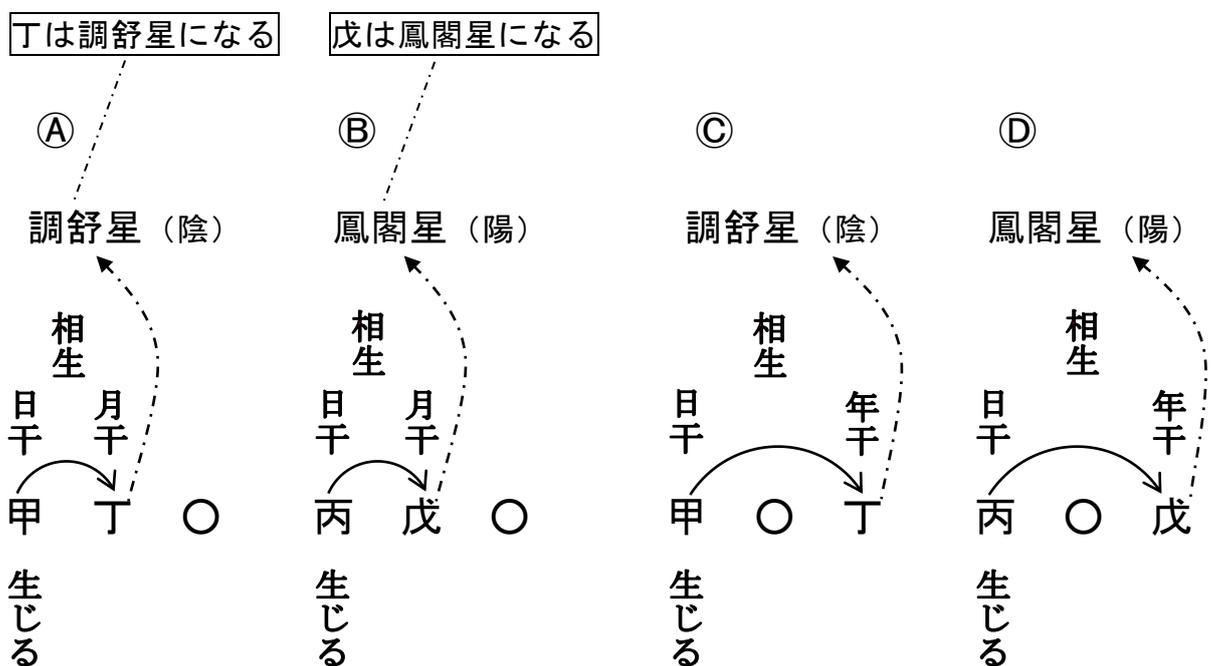
〈2〉「日干」が「ほかの干」を生じる

〔伝達本能〕

「自分が（ほかを）<sup>しょう</sup>生じる（助ける）」

参照 19 頁

「他の干」は「年干」でも「月干」でも構いません。



① 燃えている丁火のなかに、<sup>ていか</sup>甲木（薪）を焼べると、<sup>こうぼく たきぎ</sup>火力が強くなります。それは丁火を生じている姿と考えるわけです。

火が消えてしまえば、<sup>かえん</sup>火炎としての価値はなくなります。

② <sup>ぼど やま</sup>戊土（山）役目はものを育てるという意味があります。

山に<sup>へいか</sup>丙火（太陽の陽射し）があたることで、山の植物は繁茂して動物も育ちます。それは（火→土）と山を助けている姿です。

そして「日干」が「ほかの干」を生じる……姿というのは、  
〔自分が（ほかの人に）なにかを伝える〕というふうに、本能の  
世界では考えます。その状態は伝達本能の姿です。

十大主星の〔鳳閣星〕〔調舒星〕は伝達本能の星になります。

① 日干「甲」から月干「丁」を生じると〔調舒星・陰〕になります。

「甲木」は十大主星の陽干で、「丁火」は十大主星の陰干です。

十大主星の陰陽の関係で、伝達本能の陰星〔調舒星〕になります。

② 日干「丙」から月干「戊」を生じると〔鳳閣星・陽〕になります。

「丙火」は十大主星の陽干で、「戊土」も十大主星の陽干です。

十大主星の陽と陽の関係で、伝達本能の陽星〔鳳閣星〕になります。

③ 日干「甲」から年干「丁」を生じると〔調舒星・陰〕になります。

「甲木」は十大主星の陽干で、「丁火」は十大主星の陰干です。

十大主星の陰陽の関係で、伝達本能の陰星〔調舒星〕になります。

④ 日干「丙」から年干「戊」を生じると〔鳳閣星・陽〕になります。

「丙火」は十大主星の陽干で、「戊土」も十大主星の陽干です。

十大主星の陽と陽の関係で、伝達本能の陽星〔鳳閣星〕になります。

☞ 相生には「助けるとか」「面倒を見る」という意味がありました。

相生 ⇒ 助<sup>たす</sup>ける・面<sup>めん</sup>倒<sup>どう</sup>を見る

(水→木) と、水が木を育てる姿というのは、水が樹木の成長を助ける、水が木の面倒を見るような関係です。

〔たとえば〕結婚した御夫婦に子供が生まれました。

親となった両親が、生まれた赤ちゃんの面倒を<sup>み</sup>看ている状態は……親が子供を生じている姿です。

親が子供の成長を助けている状態とおなじです

親が子供を育てます……生れた赤ちゃんにミルクを飲ませたり、おむつを<sup>か</sup>換えてあげたり、泣いたらあやしたりと、いろいろ世話を<sup>か</sup>して育てます。

親が子供を<sup>はぐく</sup>育てているときに、親から子供へ（なにか）が伝わります。

子供にミルクを飲ませますし、おむつを<sup>か</sup>換えます。そのことだけでも、親の愛情は子供に伝わります。

三歳くらいの物<sup>もの</sup>心<sup>ごころ</sup>がつくようになった子供が〔わがまま勝手にいたずらをすれば〕親<sup>しか</sup>が叱ったりすることもあるでしょう。そのときに、なぜそのようなことをしてはいけないのか〔叱られるようなことをしてはいけないのかという理由〕を、親御さんが子供にわかりやすく話すことで、子供は〔これはよいこと〕〔これはわるいこと〕という判断を両親から教えられて（伝えられて）育ちます。

子供に伝わる



それは伝達です

相手を助けたり……世話をしたり、相<sup>そう</sup>生<sup>しょう</sup>する行為には、〔なにかを相手に伝えようとする本能〕が含まれていると算命学は考えています。

それゆえに〔なにかを生じる・なにかを生じていく〕というのは、伝達本能であると位置づけています。

陽星〔鳳閣星〕伝達本能

陰星〔調舒星〕伝達本能

十大主星は本能の質をそなえています。

⇒ 人体図に十大主星は5つしか載りませんが、伝達本能の星〔鳳閣星〕〔調舒星〕が、2つとか、3つとか載っている宿命もあります。その人体図の人は〔あっちにも、こっちにも〕伝達しようとする質をもっています。

そのために〔おしゃべりな人〕になるとか、それが昂じてしまうと〔口が軽い人になってしまう……〕そのような出方もあります。それが〔よい〕〔悪い〕は論じていません。

⇒ 「日干が『ほかの干』を生じる」という姿は伝達本能です。それは〔自分〕から相手（ほかの干）を…〔生じよう・助けよう・なにかを伝えて支えてあげたい〕とする気持ちが心こころの内うちに存在するからです。

参考：存在（それぞれの性質や働きが価値をもってあること）

なんとか伝えてあげたいとする『気』が発せられているのです。

算命学は「気」の学問です。

☞ 美空ひばりさんの「陰占」と「陽占」を書きました。

＊ 美空ひばり 1937(s12)-5-29 1989-6-24 [52 歳没]

大運は3歳運の順まわり

	丙	乙	丁		石門星	天印星	3	丙午
子	辰	巳	丑	鳳閣星	貫索星	調舒星	13	丁未
丑	乙	戊	癸	天将星	玉堂星	天禄星	23	戊申
	癸	庚	辛				33	己酉
	戊	丙	己				43	庚戌
							53	辛亥

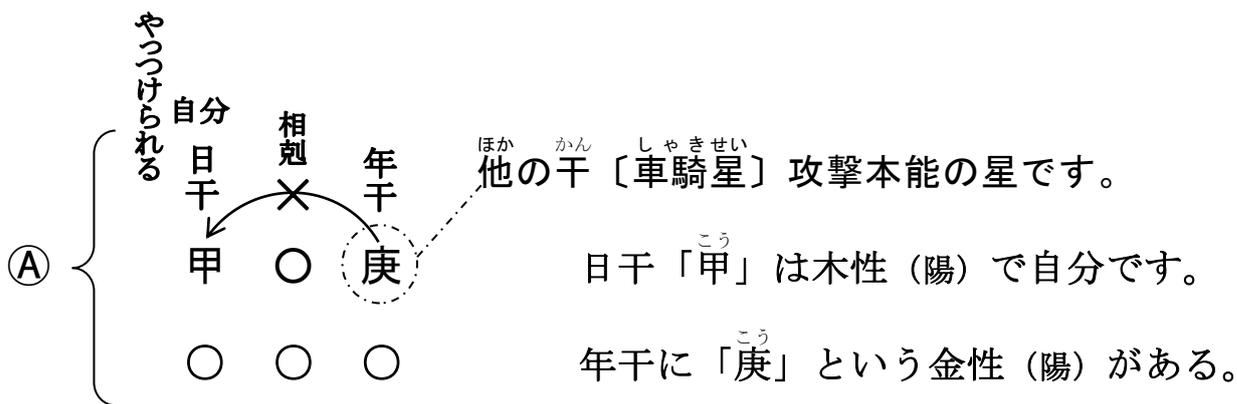
彼女は、伝達本能の星〔鳳閣星 +〕を右手に、〔調舒星 -〕を左手にもっています。両手（両翼）に伝達本能をもっています。彼女は歌手ですから、鳳閣星が表声、調舒星が裏声といえます。この2つの星を、ときにやわらかく……ときに哀しげに……、ときに激しく飛翔させ、心のおもむくままに歌唱したのです。6歳のとき、出征兵士を送る町内会で『九段の母』を歌い大人を感涙させた。9歳のとき、実家に近い「アテネ劇場」で初舞台デビュー。父親からの〔遺伝星〕が彼女に大きく影響しています。〔遺伝星〕について学ぶ機会もあるでしょう。

〈3〉「日干」が「ほかの干」から剋される

〔攻撃本能〕

「自分が（ほかから）<sup>こく</sup>剋される（<sup>こうげき</sup>攻撃される）」

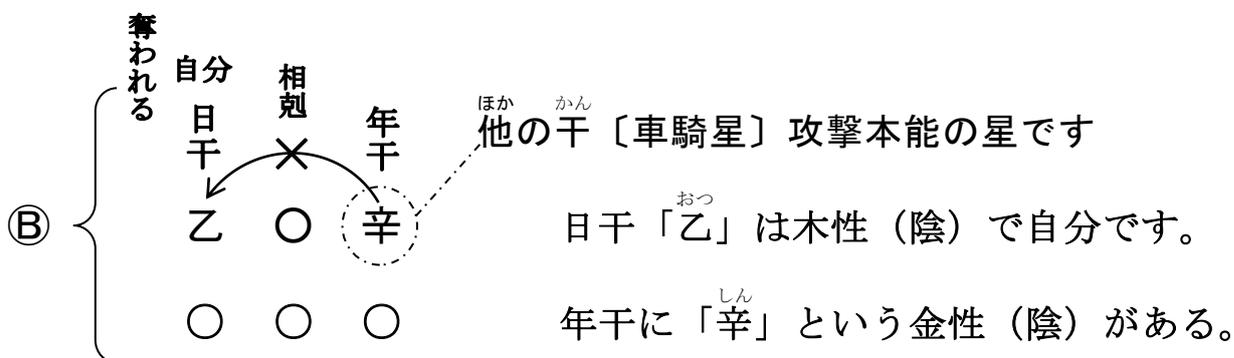
参照 25 頁



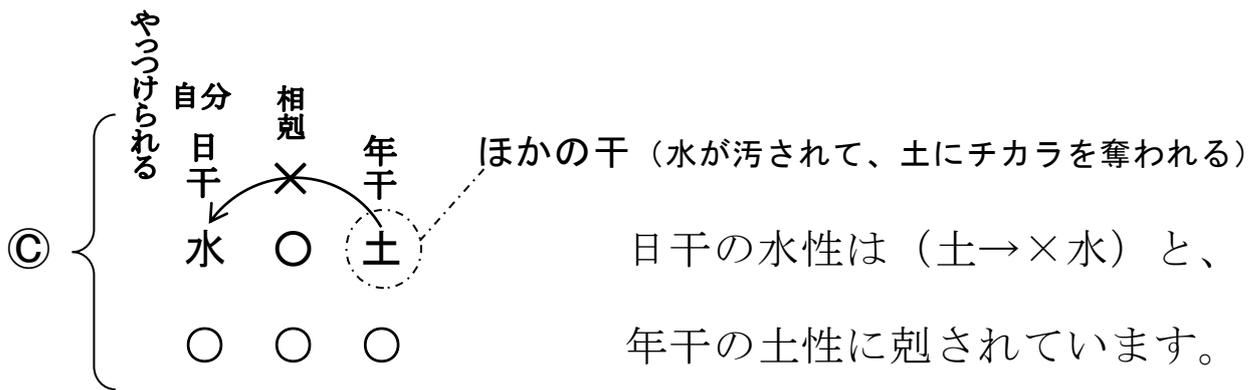
「自分がほかから剋される」 「日干が『ほかの干』にやっつけられる」

日干 <sup>こうぼく</sup>「甲木」が <sup>こうきん</sup>「庚金（ほかの干）」から剋されています。

庚金は [斧・刃物] ですから、樹木を傷つけ、切り刻むことができます。樹木が <sup>きん</sup>（金→<sup>こく</sup>木）と <sup>せい</sup>金性から攻め討たれる。



<sup>おつぼく</sup>「乙木は稲穂」 <sup>しんきん</sup>「辛金は鎌」と考えると、鎌が稲穂を刈り取っている姿です。



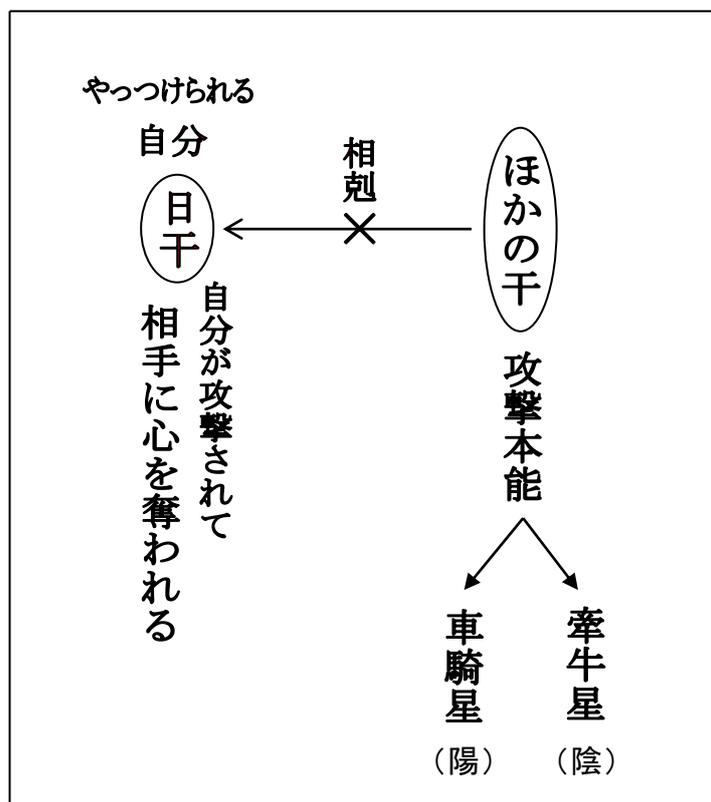
日干（自分）が 年干の土性（だれか）に剋されています。

自分のチカラが攻撃されて、誰かに奪われている状況です。

日干の心<sup>こころ</sup>が“相手に奪われる”といえます。

心<sup>こころ</sup>を奪われてしまう状態を、本能の世界では攻撃本能といいます。

攻撃本能には『行動の本能』という意味もあります。



〈3〉 ① ② ③ ⇒ 「自分が（他から）<sup>ほか</sup>剋される」相剋です。

☞ 「相剋」には『奪われる』『奪う』という意味もあります。

攻撃本能は「相手から剋されて、自分の心を奪われる」<sup>がわ</sup>側になります。

☞ 攻撃本能を『行動の本能』ともいいます。

企業戦士という言葉がありました ⇒ 「一生懸命働こう」「努力して頑張っ  
て出世しよう」という生き様をいったわけです。

なぜそこまで<sup>がんば</sup>頑張るのか…… “なにかに心が奪われている” から  
です。

人間は「何かに……」あるいは「誰かに……」でもよいです。

「人間は何かに、心を奪われているときほど、もっと頑張ろう」  
という気力が満ちあふれます。気持ちが張りつめます。

「たとえば」わかりやすいのは「スポーツの世界」です。

オリンピック選手は絶え間ない努力と、日々苦しい練習をこなし  
て、試合では自分の人生の全てをかけて頑張ります。

「なぜ、それほどまでして頑張るのか……」それはそのことに  
“心を奪われている” といえるでしょう。

……なにかに心が奪われている……

〔金メダルに心を奪われているのかも知れないし……〕

あるいは〔オリンピックに出場する名誉に心を奪われている人もいるでしょう〕〔国のために頑張ろう〕と気力を

高揚こうようさせる人もいるでしょう。

その真意は人によって異なります……〔お金のため〕とか〔出世のため〕〔自分の人生の目的のため〕さまざまですが、それらのことに頑張ろうということです。

いずれの場合でも「自分が他の干から剋される」ときは“心を奪われる状態”が起きると考えています。

なにかに心を奪われて「どれほど苦労しても惜おしくない」という一途な気持ちになれば、自分を追い立てて行動につながっていきます。算命学はその行動力が攻撃本能だと位置づけています。

心を奪われた攻撃本能にも、陽と陰があります。

陽星〔車騎星〕攻撃本能

陰星〔牽牛星〕攻撃本能

} 十大主星は本能の質をそなえています。

異性関係においても、攻撃本能の星〔車騎星〕をもっている人は、〔相手に奪われたい〕〔忠誠を尽くしたい〕という質が強くなります。

〔相手に自分の心<sup>こころ</sup>を奪われたい〕という気持ちが強くなります。

☞ 「誰かを好きになる……」これは2種類あります。

〔たとえば〕男性が女の人を好きになったとします。

好きになるということも2種類あるのです。

☞ 〈3〉「日干<sup>ほか</sup>が他の干<sup>かん</sup>に剋される」〔攻撃本能〕の人は……

『相手に心を奪われたい』というタイプです。

〔自分のほうが相手に惚れる〕⇒『自分の心が相手に奪われる』

☞ 〈4〉「日干<sup>ほか</sup>が他の干<sup>かん</sup>を剋す」〔魅力本能〕の人は……

『相手の心を奪う』というタイプです。

〔相手を自分に惚れさせたい〕⇒『自分が相手の心を奪いたい』

魅力本能は〔自分が相手の心<sup>こころ</sup>を奪いたい〕という質が強くなります。

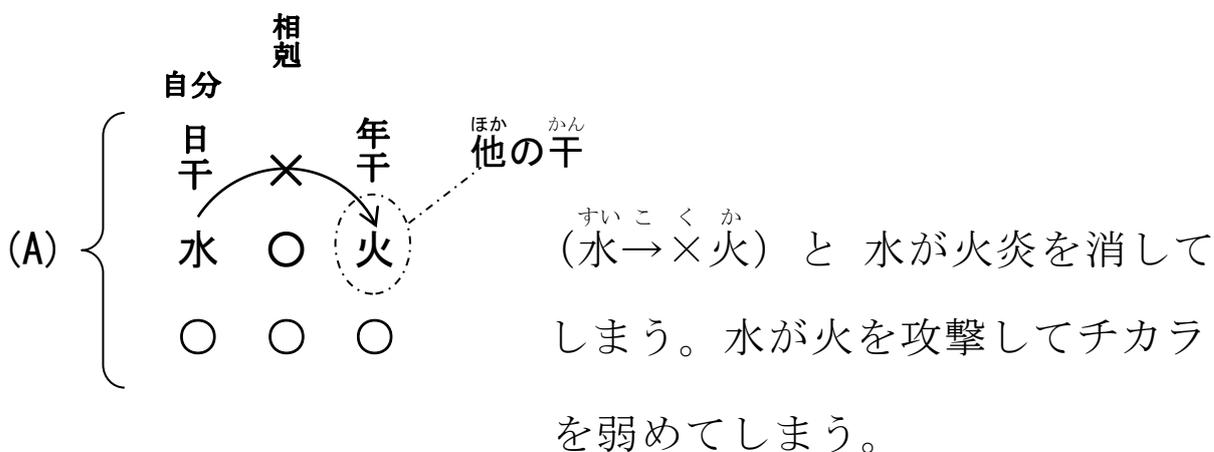
このように『2つのタイプ（好み）』があるわけです。

〈4〉「日干」が「ほかの干」を剋す

〔魅力本能〕

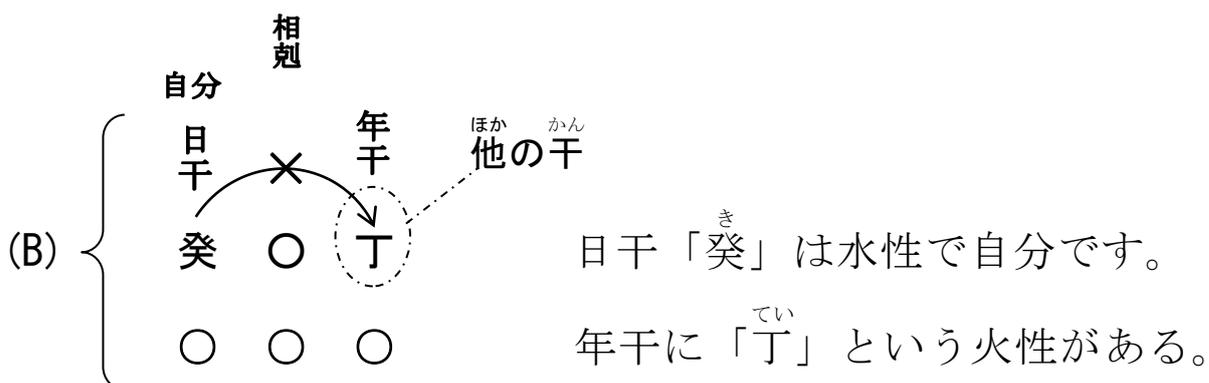
「自分が（ほかを）<sup>こく</sup>剋す（攻撃する）」

参照 30 頁



「相剋」は〔相手をやっつけるような関係〕といました。

自分から相手に対して攻撃的な「相剋」について、本能の世界では「相手のチカラを奪ってしまう」と考えているのです。

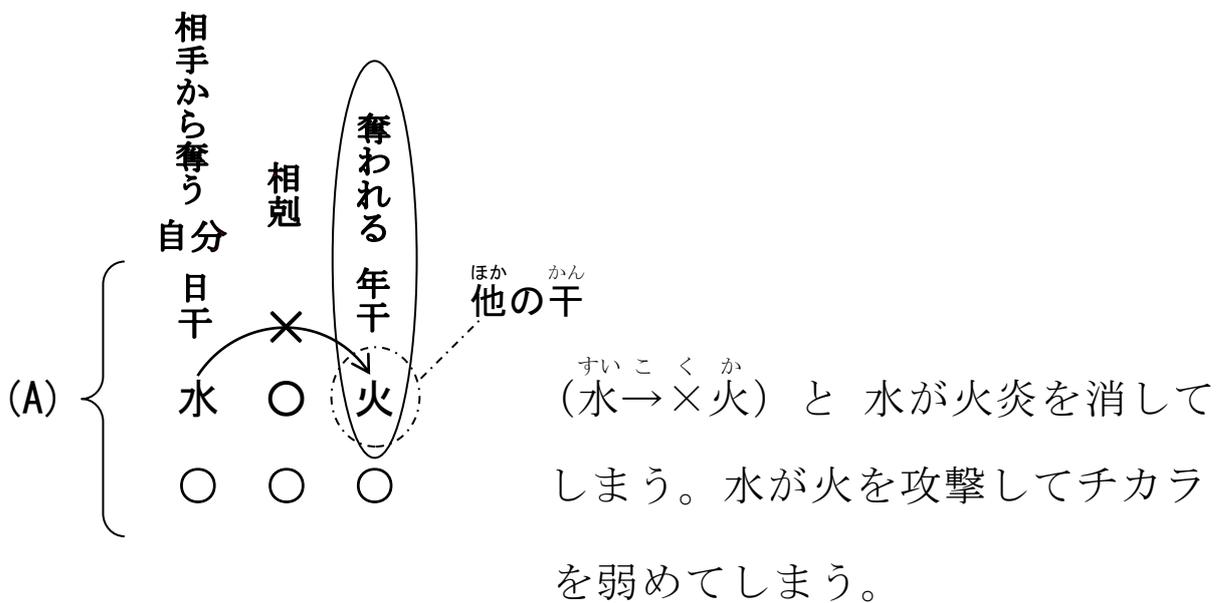


☞ 本能の世界はつぎのような考え方をします。

(水→×火) と 水をかけたら火力が弱くなった。

あるいは、水が火を消してしまった。

その状態は「水が火の力を奪ってしまっひちからた」ともいえるはずひです。

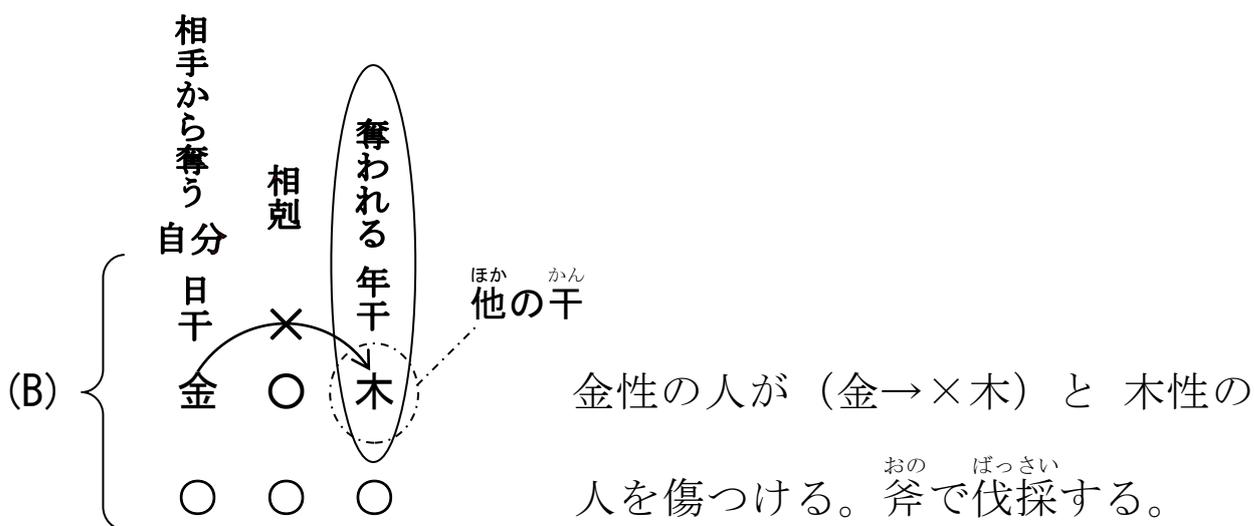


すいこくか (水剋火) と 水が火炎を消してしますいこくかう



水が年干の火炎のチカラを奪ってしますいこくかった

☞ 相剋には『奪う』という意味があります。



<sup>きん こ く もく</sup>  
(金→×木) と 刃物は樹木を傷つけます。

金性の人が、木性の人<sup>こころ</sup>の心 (チカラ) を奪いとってしまった。  
このようにもいえるわけです。

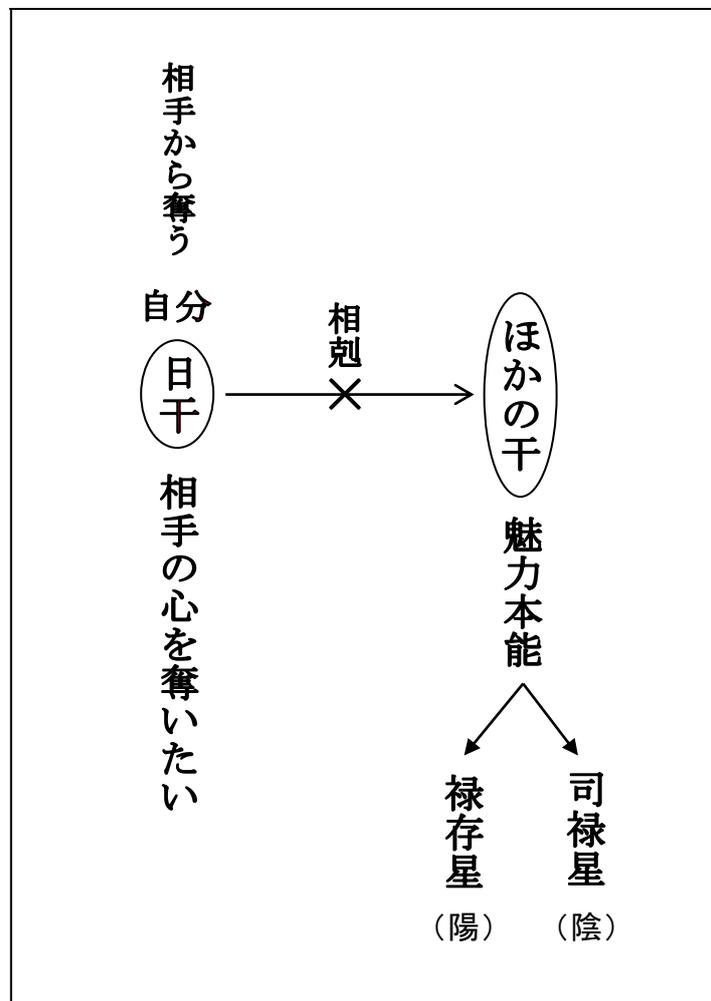
この状態を本能の世界でいえば “相手の心<sup>こころ</sup>を奪う”

『相手の心を自分に惹きつけて奪<sup>ひ</sup>いたい』とする本能であり、それは魅力本能だと位置づけています。

☞ 魅力本能については…… [相手から良く想われない] とか [相手から好かれない] [愛されたい] そういう本能です。と、はじめの頃にやりました。

その心奥<sup>しんおう</sup>にあるのは「相手の心を奪<sup>おも</sup>いたい」とする想いとおなじです。相手のチカラを奪おうします。

この本能を〔魅力本能〕と位置づけています。



魅力本能も（陽）と（陰）があります。

陽星〔禄存星〕魅力本能  
陰星〔司禄星〕魅力本能 } 十大主星は本能の質をそなえています。

〈5〉「日干」が「ほかの干」と比和

〔守備本能〕

「自分が（ほかと）<sup>ひ わ</sup>比和（おなじ）」

参照 34 頁

『比和』の関係というのは、おなじもの同士を意味します。

自分と「おなじ干」がほかにあれば ⇒ 陰陽でも『比和』になります。

👉 ㊶ ㊷ 2つ書きました。

㊶

自分 日干	比和	年干	
壬	○	壬	ほかの干〔貫索星〕守備本能（陽）です。
○	○	○	日干「 <sup>じん</sup> 壬」は水性（陽）で自分です。

年干に「壬」（陽）があり『比和』

自分とおなじ「<sup>じんすい</sup>壬水」が<sup>ねんかん</sup>年干にあります。

㊷

自分 日干	月干		
壬	癸	○	ほかの干〔石門星〕守備本能（陰）です。
○	○	○	日干「 <sup>き</sup> 癸」は水性の（陰）で自分です。

年干に「壬」（陽）があり『比和』

日干「<sup>じんすい</sup>壬水」で自分とおなじ<sup>ごぎょうすいせい いんかん</sup>五行水性の陰干「<sup>きすい</sup>癸水」が  
<sup>げっかん</sup>月干にあります。自分とおなじ水性なので『比和』です。

自分とおなじ五行の「干」がほかにあれば ⇒ 陰陽でも『比和』です。

① <sup>かんさくせい</sup>〔貫索星〕五行は木性〔守備本能・陽〕です。

② <sup>せきもんせい</sup>〔石門星〕五行は木性〔守備本能・陰〕です。

木性も（陽）と（陰）があります。

「甲木」は（陽の木性）です。

「乙木」は（陰の木性）です。

『比和』は ① ② のように、「干」がおなじになっている状態をいいます。

日干が<sup>もくせい</sup>木性で、ほかに<sup>もくせい</sup>木性の<sup>かん</sup>干があれば『比和』です。

〔たとえば〕日干「<sup>おつぼく</sup>乙木」で、ほかに「<sup>こうぼく</sup>甲木」があれば、五行がおなじ<sup>もくせい</sup>木性なので、陰陽でも『比和』になります。

日干が「<sup>こうきん</sup>庚金」という<sup>きんせい</sup>金性で、ほかにも「<sup>しんきん</sup>辛金」という金性があると比和になります。

五行はおなじ金性ですから『比和』になります。

金性も（陽）と（陰）があります。

「庚金」は（陽の金性）です。

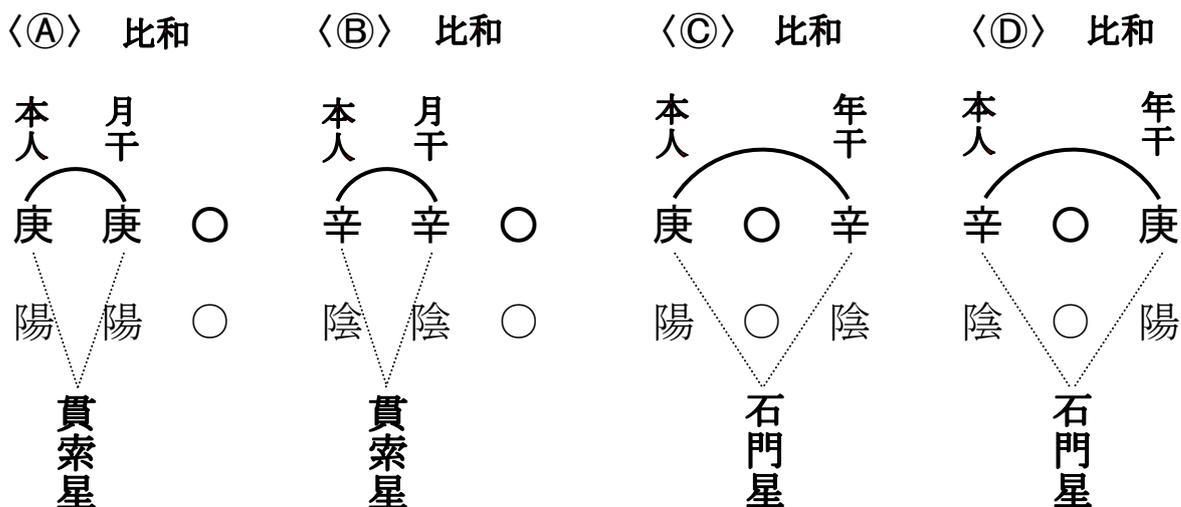
「辛金」は（陰の金性）です。

『比和』を本能になおすと〔守備本能〕になります。➡

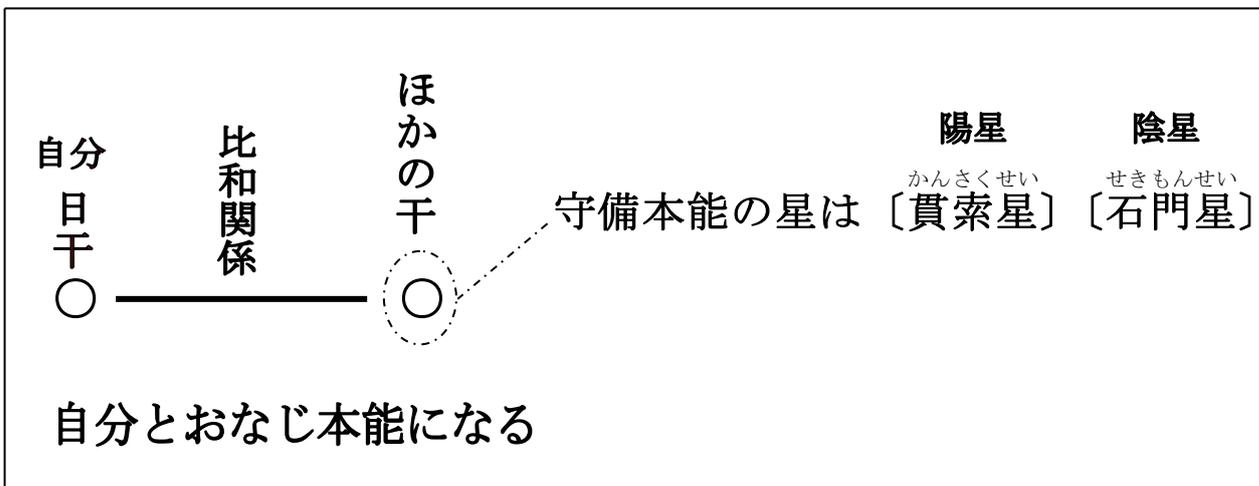
『比和』を本能になおすと〔守備本能〕になります。

ここで大切なのは…… 守備本能になるということです

十大主星になおすと守備本能の星〔貫索星〕と〔石門星〕になります。



すべて『比和』で守備本能の星になります。



〈A〉 日干「庚金」<sup>こうきん</sup> で 月干「庚金」は 陽の金性同士の『比和』星は貫索星です。十大主星の守備本能は〔貫索星〕<sup>かんさくせい</sup> 陽星<sup>ようせい</sup>です。

〈B〉 日干「辛金」<sup>しんきん</sup> で 月干「辛金」は 陰の金性同士の『比和』星は貫索星です。十大主星の守備本能は〔貫索星〕<sup>かんさくせい</sup> 陽星<sup>ようせい</sup>です。

〈C〉 日干「庚金」で 年干「辛金」は 陽と陰の金性同士です。  
 (陽) と (陰) の『比和』⇒ 守備本能は〔石門星〕<sup>せきもんせい</sup> 陰星<sup>いんせい</sup>になります。

〈D〉 日干「辛金」で 年干は「庚金」<sup>こうきん</sup> は 陰と陽の金性同士です。  
 (陰) と (陽) の『比和』⇒ 守備本能は〔石門星〕<sup>せきもんせい</sup> 陰星<sup>いんせい</sup>になります。

(陽と陽) (陰と陰) は貫索星

(陽と陰) (陰と陽) は石門星

十大主星 (陰陽の決め方) です

📖 表の説明は 46 頁

日干	ほかの干	十大主星
陽 (+)	陽 (+)	⇒ 陽 (+)
陰 (-)	陰 (-)	⇒ 陽 (+)
陽 (+)	陰 (-)	⇒ 陰 (-)
陰 (-)	陽 (+)	⇒ 陰 (-)

このようになります

✎ 十大主星〔陰陽〕（五行）「五本能」を整理しました。

十大主星〔陽星〕は五星あります。

かんさくせい ほうかくせい ろくぞんせい しゃきせい りゅうこうせい  
〔貫索星〕〔鳳閣星〕〔禄存星〕〔車騎星〕〔龍高星〕

十大主星〔陰星〕は五星あります。

せきもんせい ちょうじょせい しろくせい けんぎゅうせい ぎょくどうせい  
〔石門星〕〔調舒星〕〔司禄星〕〔牽牛星〕〔玉堂星〕

「五本能」も五行の（陰）と（陽）があります。

	陽星	陰星
しゅびほんのう 守備本能	（五行は木性）⇒ 十大主星〔貫索星〕	〔石門星〕
でんたつほんのう 伝達本能	（五行は火性）⇒ 十大主星〔鳳閣星〕	〔調舒星〕
みりょくほんのう 魅力本能	（五行は土性）⇒ 十大主星〔禄存星〕	〔司禄星〕
こうげきほんのう 攻撃本能	（五行は金性）⇒ 十大主星〔車騎星〕	〔牽牛星〕
しゅうとくほんのう 習得本能	（五行は水性）⇒ 十大主星〔龍高星〕	〔玉堂星〕

『比和』は守備本能になります。

「日干（自分）」は（五行水性）で、他におなじ（水性）の「干」があれば、『比和』ですから守備本能になります。

☞ 守備本能をちょっと考えていただきたいのです。

〔たとえば〕たった一人ぼっちで、山の中に取り残された  
とします。

山のなかに自分だけ取り残されてしまって、まわりには  
誰もいない……どういう心境になってくるでしょう。

たった一人、山中に残された



**不安**      たった一人だけ、山の中に取り残されたら、  
**こわい**      どんな人でも不安になるはずです。

吹きすさぶ風に、木々がざわめき、ごうごうと獣の唸り声のよう  
に響いてくる。すうっと<sup>むらくも</sup>叢雲がひろがり、<sup>やみ</sup>闇が<sup>おそ</sup>襲って来た。

このような状況に置かれてしまったら“怖い”ですよ。

手にした懐中電灯を照らしても、だれの姿もない。

なぜ……不安で怖いのでしょうか？ 一人だからです。

では、一人だと、なんで不安で、怖いのですか？

頼れるものがないからです。懐中電灯の電池が消耗して  
……消えたらとおもうだけで恐怖はつづきます。

空を見上げると、群雲むらくもが流れて樹木のあいだから、わずかな明かりが差し込んできて、ほっとしました。

それもつかの間で、雲が襲ってきて雨が降りだしました。このまま夜が来て真っ暗闇になれば30 cm先も見えません。そうなるとすごく怖い、不安になります。

自分を護まもることができなくなるからです。

普通どのような人でも、生活するときには、人が住んで居る所に暮したい。という本能があるはずです。

人里離れた山奥のなかで、一人で暮したい……ふつうは思わないでしょう。(よっぽどの変人か、人間関係でつらい目に遭わされたとか、そういう人を除いてですよ)

たった一人で山の中で暮していたら、病気になっても、だれも頼れないのです。

自分との『比和』がない状況では、自分を護まもることができません。

人が多く住んでいる都市・町で暮らそうとするのは……

自分を護まもろうとする本能が強くててくるためといえます。それが守備本能です。

いっぴきおおかみ

一匹狼 といいますけど、生後2年で成熟したオオカミは群れを離れて暮らし、相手を見つけるまで孤高ここうで生きます。子供が生まれて群れをつくります。

いっとう

虎は一頭で暮らし、親離れした熊も一頭で暮します。群れずに孤高で暮していける動物は大きくて強いです。

だいたいにおいて……弱い動物ほど群れをつくります。

おなじ種族の動物と集団で暮したがるはずです。

比和する者・同類と一緒に暮したがるのは、自分の守りがしっかりするからです。

⇒ 五つの本能「五本能」なかで……基本的に「日干」と比和する「干」があると守備本能になります。

宿命に『比和』が多ければ、守備本能がしっかりします。

自分と同類ですから、自分もまた同類を守ろうとします。

その意味でも、守備本能が強固になっていきます。

⇒ 英語圏ではない外国へ行きました……なんらかの事情で自分一人がその国に取り残されてしまった。言葉が通じないとなおさらです。たまらなく不安になります。

私たちの身近な人間関係を見ても……友達をつくったりするのは、少しでも自分と気が合う人とか、自分とおなじ境遇にいる人物とか、自分とおなじ悩みを抱えている人が存在すると、集団になりやすいわけです。

『比和の関係』はおなじような立場といえますし、同質の仲間ともいえます。友達になれば心強いです。

そういう人同士で集まったほうが“相身互い”<sup>あいみたがい</sup>なので、助け合うことも容易<sup>ようい</sup>です。

なにかが起こっても、不安が軽減されます。

❖ 北朝鮮の拉致被害者家族の会長は、横田<sup>よこたしげる</sup>滋さんでしたが他界されました。

横田めぐみさんが拉致されて、一人だけで悩み苦しんで陳情してもなかなかうまく行かないわけです。

しかし、おなじように北朝鮮に拉致された人……おなじ境遇、おなじ苦しみをもった人同士が集まって、団結したほうが心強いです。「被害者の会」を結成したことで、国民からの賛同も得られます。

『比和』が強固になって、守備がしっかりするわけです。

[たとえば] **宿命(1) 比和** のように、日干「<sup>こう</sup>甲」という人がいて、その人と比和する「甲」が月干にあります。年干にも「乙」があるとすれば、陰陽であっても、宿命に自分とおなじものが多数あるわけです。

「天干(陰陽)」の五行はすべて木性で『比和』です。

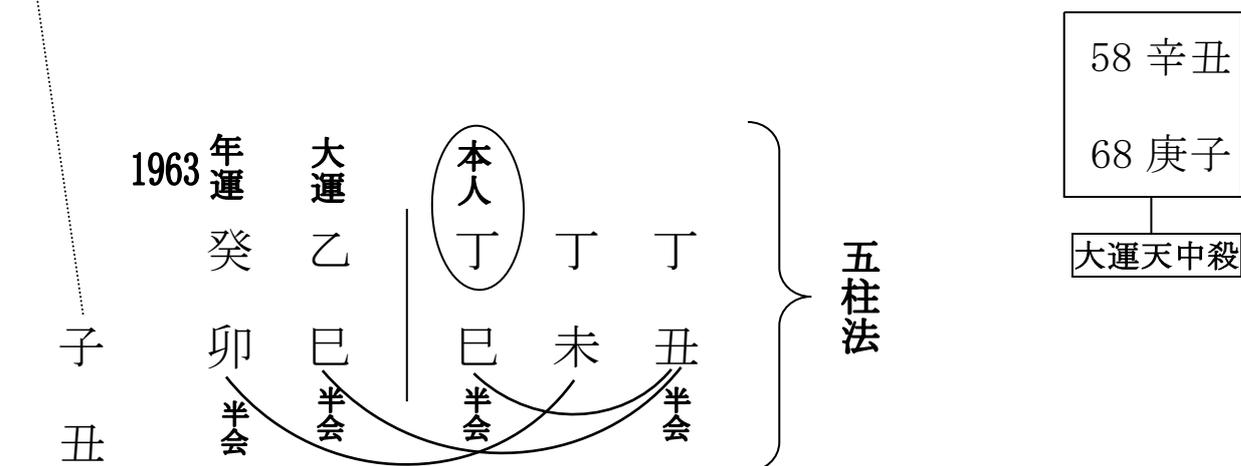


このような宿命の人物は、守備本能が強い人です……というふうな考え方もできます。

＊ 橋本龍太郎 1937-7-29 [2006-7-1 没 68 歳]

宿命（2）橋本龍太郎・比和

	丁	丁	丁		貫索星	天庫星	8 丙午
子	巳	未	丑	石門星	鳳閣星	鳳閣星	18 乙巳
丑	戊	丁	癸	天将星	貫索星	天南星	28 甲辰
天中殺	庚	乙	辛				38 癸卯
	丙	己	己				48 壬寅



橋本龍太郎氏は親の跡を継げない宿命でしたが、1962 年（父・橋本龍伍）が急死したため、親の跡を継げる状態になった。佐藤栄作氏の指名を受けて亡父の後継者として出馬。1963 年の衆議院議員選挙で初当選した。

1963 年「癸卯」初当選の「<sup>ごちゅうほう</sup>五柱法」は橋本龍太郎氏を<sup>ささ</sup>支えている。

2001 年「辛巳」7 月 2 日〔63 歳〕医師会から 1 億円の小切手を受け取る。

2002 年「壬午」3 月 13 日〔64 歳〕政治資金規正法違反。

2006 年「丙戌」7 月 1 日〔68 歳没〕「大運は財中殺」でした。

宿命（3）橋本龍太郎・比和

	丁	丁	丁
子	巳	未	丑
丑	戊	丁	癸
	庚	乙	辛
	丙	己	己

生年中殺

「せいねんちゆうさつ生年中殺」というしゅめいちゆうさつ宿命中殺をもって

いますから、本来「親の跡を継げません」

父親が他界したので、跡を継げました。

🔍 **生年中殺** ⇒ 57 回目【天中殺論】(3)〈20 頁〉を参照ください。

「日干」「月干」「年干」は「丁」の火性です。

この姿は **比和** です。

橋本龍太郎さんは「てんかんいっきかく天干一気格」という宿命です。

天干はすべて「丁火」でまったくおなじ「干」が並んでいます。

「てんかんいっきかく天干一気格」は上のクラスで勉強しますが、『比和』ですから、自分とおなじ仲間を重んずる質があります。

宿命は『比和』なので「守備本能」が強いといえます。

## 十大主星（陰陽の決め方）です

日干	ほかの干	十大主星
陽（+）	陽（+）	⇒ 陽（+）
陰（-）	陰（-）	⇒ 陽（+）
陽（+）	陰（-）	⇒ 陰（-）
陰（-）	陽（+）	⇒ 陰（-）

37 ページの表と  
おなじです。

十大主星の陰と陽は……「日干」の陰陽と「ほかの干」の陰陽との組合せで決まります。

習得本能でも（陽の習得本能になるのか）、（陰の習得本能になるのか）それは陽と陰のどちらになるのかが決まります。

このことは「相生」「相剋」「比和」に関係ないのです。

日干（陽）……ほかの干も（陽）なら ⇒ 十大主星は（陽）の星です。

日干（陰）……ほかの干も（陰）なら ⇒ 十大主星は（陽）の星です。

日干（陽）……ほかの干が（陰）なら ⇒ 十大主星は（陰）の星です。

日干（陰）……ほかの干が（陽）なら ⇒ 十大主星は（陰）の星です。

数学の+・-の掛け算とおなじです。

（+と+を掛けると+）      （-と-を掛けると+）

（+と-を掛けると-）      （-と+を掛けると-）

こういう仕組みで決まっているわけです。



実際に星を出すときには『十大主星表』をつかいます。

『十大主星表』を見ると、十大主星の名称が10個並んでいます。

貫索星・石門星は木性です。 鳳閣星・調舒星は火性です。

禄存星・司禄星は土性です。 車騎星・牽牛星は金性です。

龍高星・玉堂星は水性です。五行（木火土金水）の順番です。

♪ 読み方を付記します。声に出して読むとよいでしょう。

木性 貫索星（かんさくせい）と 石門星（せきもんせい）

火性 鳳閣星（ほうかくせい）と 調舒星（ちょうじょせい）

土性 禄存星（ろくぞんせい）と 司禄星（しろくせい）

金性 車騎星（しゃきせい）と 牽牛星（けんぎゅうせい）

水性 龍高星（りゅうこうせい）と 玉堂星（ぎよくどうせい）

【初年】 28回目【陰占五本能と十大主星】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 29回目【十大主星特性①】